

## 序

熊本野生生物研究会会長

西岡 鐵夫

21世紀を迎えて、はや1年が経過しました。今世紀は「環境」が一つのキーワードになるといわれてきました。この言葉に対する人々の関心はたいへん高まり、今や世界的に普遍化した言葉になっています。

現在、私たちの周囲では身近な家庭のゴミに始まり、社会全体から出てくる産業廃棄物まで、その処理が大きな問題となっています。一方、これらの直接的な社会環境からワンクッションおいた自然環境にかかわる問題、ひいては日光・大気・水・土壌に関する地球環境問題まで、予断を許さないほど深刻化しているのです。

去る平成7年10月、地球環境保全に関する関係閣僚会議で「生物多様性国家戦略」が決定されました。その冒頭に「地球上にはきわめて多くの生物が生息し、人類の生存基盤である多様な生態系を形づくっております。…」とあります。そして、生物多様性が人間生活にかけがいのない存在であることに言及し、現在におけるその著しい減少を懸念して、その保全が緊急課題であることを主張しています。

私たちは熊本野生生物研究会の活動を通して、この生物多様性保全に関する問題と直接関係しています。昭和60年の発足以降16年間、常に野生生物と人間との共存を考え、種の保存を基本理念として野生生物の調査・研究と自然教育活動に関わる活動を行ってきました。その成果は熊本県の自然環境保全の一助になっていることは間違いなく、ひいては、地球環境保全の一役割を果たしていることと自負しています。

さて、ここに会誌第3号を発行することになりました。本会会員の調査研究の集約であり、活動成果の一端であります。前号より6年も経ってしまいましたが、これも各方面で活躍している会員の多忙化のため、やむをえないことだったと思っています。

ともあれ、この会誌が多くの人々の眼にとまり、忌憚なきご意見やご助言をお寄せいただければ幸いです。最後に、これまで本会にご協力いただいた多くの方々へ心から感謝すると共に、厚くお礼申し上げます。